

島崎藤村『夜明け前』 冒頭の有名なフレーズ「木曾路は全て山の中である」。

まさにそんな山郷の町、上松町。

赤沢自然休養林は樹齢300年以上の「木曾ヒノキ」の天然林で温帯性針葉樹林の貴重な森として、また、森林セラピーや森林浴といった健康増進・癒しの森としても近年注目をされています。また、伊勢神宮式年遷宮での御用林も務め、当町でも20年に一度「御杣始祭(三ツ紐伐り)」「奉曳車での里曳き」など「御神木祭」が厳粛の中、盛大に執り行われます。

伊勢神宮との結びつきも深いこの上松町では、各地区に氏神様として社が点在しており、それぞれ祭事が執り行われています。

伝統文化、伝統芸能として、今でも絶えることの無いよう伝承されています。

その多くの祭事の中から「未広がりで見出度い」として八大例祭？をご紹介します。

ぜひ、お祭りも見に来てください。

<p>わかみやじんじゅれいさい ① 若宮神社例祭</p> <p>場所：島地区</p> <p>祭神：保食命、伊弉冉尊、伊弉諾尊</p> <p>氏子：島、小田野地区</p> <p>祭日：4月下旬(小川里若連中)</p> <p>獅子狂言：上松町無形文化財</p>	<p>昔は、八十八夜5月1日、2日頃が祭日でしたが、現在は4月下旬の金、土、日曜日で例祭を行っています。小川里若連により獅子狂言、奉納神楽などが執り行われます。代表的なものは「葛の葉」、浄瑠璃の「信太森女古」からとった獅子狂言。「恋しくば尋ね来て見よ、和泉なる信太の森の怨み葛の葉」という文字を、獅子頭をかぶり筆を口にくわえて唐紙大の白紙に書きます。口で書いたとは思えないほどの達筆さには目を見張ります。</p>
<p>こまがたけじんじゅれいさい ② 駒ヶ嶽神社例祭</p> <p>場所：東里徳原地区</p> <p>祭神：保食命(宇賀御魂命)</p> <p>氏子：東小川地区全戸、太々講地</p> <p>祭日：5月3日(太々神楽連)</p> <p>太々神楽：長野県無形文化財 国選択民俗文化財</p>	<p>八十八夜5月3日頃例祭が行われる。この神社は駒ヶ嶽山頂にある本社の里宮で地元では「里宮」「古宮」などと呼ばれ親しまれています。衣食住及び農蚕牛馬の守護神であることから、関連の深い石碑も多くみられます。この神社の例祭は、氏子の中の定められた農家の長男に、古くから一子相伝で伝えられている「駒ヶ嶽神社太々神楽十三座」が拜殿内の舞台上で奉納されます。十三座の中「四神五返拜」「三剣舞」は迫力があります。</p>
<p>おおみやじんじゅれいさい ③ 大宮神社例祭</p> <p>場所：寝覚地区</p> <p>祭神：天照大神、伊弉冉尊、底筒男命</p> <p>氏子：寝覚・見帰地区、東西小川</p> <p>祭日：7月中旬(大宮若連)</p>	<p>近年「海の日」の連休の金、土、日曜日で例祭があり、金曜日の夜は「芸ざらい」と称し、上松中学校駐車場特設舞台上で獅子狂言・地歌舞伎「白波五人男」「佐倉惣五郎」などが行われ、最後「餅投げ」で終了。土曜日午前中、日曜日昼頃に神社で神事が行われ、獅子舞が奉納されます。その他、各戸を回っての「悪魔払い」、夜は「お神楽」のお練りが行われます。日曜日深夜から月曜日未明にかけての「神納め」は「一見の価値あり」です。</p>

<p>かしま・かとりじんじゅれいさい ④ 鹿島・香取神社例祭</p> <p>場所：荻原地区</p> <p>祭神：武甕槌神、経津主命</p> <p>氏子：小野、荻原、宮戸地区</p> <p>祭日：7月17日、18日に近い土、日曜日(荻原若連)</p> <p>鹿島神社棟札：上松町有形文化財</p>	<p>7月の17日18日が祭日となっていたが、近年は「海の日」の前土、日曜日で例祭を行っています。2日間にわたり小野、荻原、宮戸地区の各家と事業所の悪魔払いをして回ります。悪魔払いには「でわ式」「十二もん」の2様があり、お祭りを仕切る若連の頭がその都度どの舞をするか指示をしています。地区内には木曾八景の一つ「小野の瀑布」の小野の滝があります。そのわきに「不動明王社」があり、小野の滝を背景に舞われる獅子舞が見所です。</p>
<p>⑤ ひのきの里の夏祭り</p> <p>場所：上松駅前</p> <p>開催日：7月最終土曜日</p> <p>(上松町商工会)</p>	<p>上松町は林業で発展した町で、昭和43年に第1回目の「木材祭り」が開催されました。当時は材木の市と合わせ市に参加されるお客様のおもてなしを兼ね行っていたお祭り、近年、商工祭として「ひのきの里の夏祭り」と変わってきました。今は「全国木馬引き大会」として、昔木材の搬出に使われていた「木馬(そり)」を再現し、駅前ロータリーでタイムレース、コスプレレースなどが盛大に行われています。「集え!! 全国の猛者」</p>
<p>⑥ 盆踊り大会</p> <p>場所：上松駅前(ふれあい広場)</p> <p>開催日：8月14日 19:00～</p> <p>(正調木曾踊あげまつ保存会)</p>	<p>木曾路は江戸と京都を結ぶ中山道の要所であり、旅する方などにより木曾の民謡は諸国へ伝播され親しまれてきています。中でも「木曾のナーナカノリサン 木曾の御嶽ナンチャラホイ 夏でも寒いヨイヨイヨイ」で有名な木曾節、お盆の8月14日に「盆踊り大会」が「正調木曾踊あげまつ保存会」を中心に開催されます。木曾踊りは太鼓や三味の入らない素朴で優雅な歌声と、軽快、簡明、温雅な踊りの調和は長い歴史に培われてきた賜物です。</p>
<p>すわじんじゅれいさい・はちまんぐうれいさい ⑦ 諏訪神社例祭・八幡宮例祭</p> <p>場所：上松町内</p> <p>祭神：建御名方命、事代主命・応神天皇</p> <p>氏子：上松町内、上条地区</p> <p>祭日：9月初旬と下旬(十五夜祭)</p> <p>獅子狂言：上松町無形文化財</p> <p>八幡神社本殿：上松町有形文化財</p> <p>若宮八幡宮神殿：上松町有形文化財(上若連中)</p>	<p>例祭前夜には上若連による「芸ざらい」獅子狂言・地歌舞伎が八幡宮にて行われます。多くの地歌舞伎が伝承されておりその年々で演目は変わります。例祭2日間において地区内の各戸の「悪魔払い」と夜には上若連によるお神楽が諏訪神社大神様(お神輿、大幣束)を先導してお練りが行われます。2日目深夜から翌未明にかけて八幡宮から諏訪神社へ向かう一つ太鼓は普通のお練りとは違う迫力が見ものです。「かぼちゃ粥も一度は食すべき!!」</p> <p>9月下旬の十五夜祭は上町瀬木地区で行われ、3年に一度八幡宮にて芸ざらいも行われます。</p>
<p>しんめいじんじゅれいさい・かすがじんじゅれいさい ⑧ 神明神社・春日神社例祭</p> <p>場所：立町地区</p> <p>祭神：大日靈命、天児屋根命</p> <p>氏子：立町、倉本地区</p> <p>祭日：10月第3土、日曜日(立町若連)</p>	<p>土曜日の午前中に神社にて、神楽のお払いなどの神事を行い、神事が終わると若連は地区内の悪魔払いに出発していき、2日間かけて地区内の悪魔払いが行われます。</p> <p>この例祭では他の例祭と違い夜のお神楽のお練りは行われませんが、土曜日には若連が出発した後の神社で、個人で安泰を祈ってお宮参りに来た氏子の中で、特に希望する人には湯立てをしてくれます。また、昼頃からは、地区内の小中学生による「浦安の舞」が奉納されます。</p>